

# イカナゴシンコ(新仔)の漁況予報

イカナゴのシンコは、船曳網漁業者にとって非常に重要な魚です。また、春の訪れを告げる魚として一般県民にも親しまれています。

水産技術センターでは、毎年2月下旬頃から開始されるシンコ漁に先立って、産卵親魚の調査や仔魚の分布調査を行い、“漁況予報”を作成してホームページ等で公開しています。

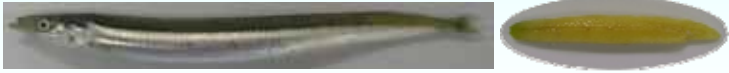


春を呼ぶイカナゴシンコ漁

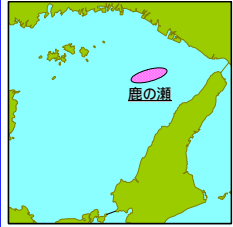
## \*\*\* 産卵親魚の調査 \*\*\*

イカナゴの寿命は3~4年で、生後1年目から産卵します。産卵期は12月頃で、親魚はその直前まで砂の中に潜っているため、スマルという漁具を用いて採集します。

この調査から、親魚量や産卵量、産卵時期などを知ることができます。

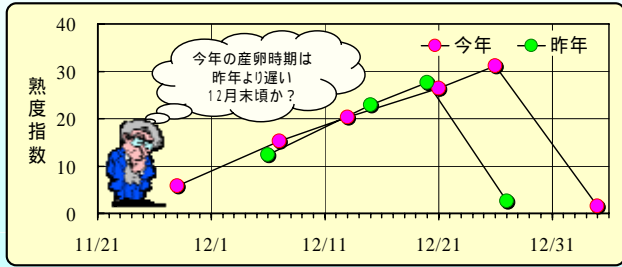


イカナゴの親魚(フルセとも呼ぶ、全長140mm・満2才)とその卵巣



採集場所(鹿の瀬)

スマルで採集された親魚



雌親魚の卵巣の熟度指数の変化

## \*\*\* 仔魚の分布調査 \*\*\*

イカナゴの卵は海底の砂などに付着し、約2週間で孵化します。孵(ふ)化した仔魚は海面近くに浮上し、冬の季節風等により産卵場から拡散するため、1月下旬頃にプランクトンネットを用いて採集します。

この調査から、仔魚の拡散状況や生育状況(大きさ)を知ることができます。



イカナゴの孵化仔魚(全長4mm前後)



調査船「新ひょうご」(2ノット、3分、表層水平曳き)

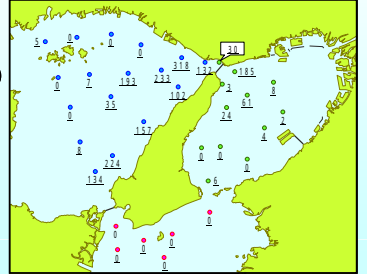


仔魚を採集するネット

(口径45cm、長さ150cm、目合0.4mm)



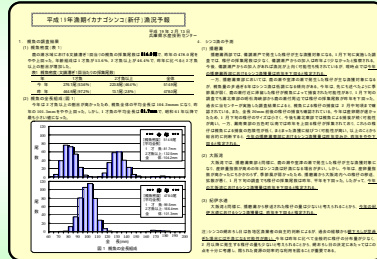
鹿の瀬からあまり拡散していないなあ



イカナゴ仔魚の分布調査結果

## \*\*\* 漁況予報の作成・公表 \*\*\*

親魚や仔魚の調査結果をもとに、季節風や水温等の気象・海象要因も考慮しながら“漁況予報”を作成し、記者発表を通じて公表するとともに、ホームページにも公開しています。最近、一般の家庭にも“くぎ煮”文化が定着し、漁の最盛期には朝から新鮮なシンコを求めて店先に行列ができる程、一般の人々の関心も高く、漁況予報に対するアクセス件数も平成18年度には8,000件近くに達しました。



漁況予報



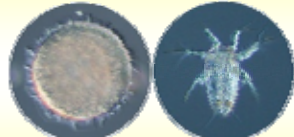
イカナゴのくぎ煮

## \*\*\* 今後の課題 \*\*\*

既存の調査だけでは精度の高い漁況予報を望めません。予報精度の向上を図るためには、これまでは行われて来なかった仔魚の餌(えさ)があるのか、ないのか(餌料環境)といったことも調査して行く必要があります。



イカナゴの稚仔とその消化管



稚仔がよく食べているもの